

# . 会 議 記 録

# 1 . 協 力 協 定 調 印 式

## 1 - 1 日本側挨拶

財団法人 日本建築センター  
理事長 立石 真

おはようございます。財団法人日本建築センターの立石でございます。

本日は、中国から張文成院長様をはじめとする中国建築設計研究院の皆様方、また袁振隆執行院長様をはじめとする中国建築科学研究院の皆様方をお迎えいたしました。皆様、遠路はるばるよくいらっしゃいました。心から歓迎申し上げます。

また、日本からは財団法人ベターリビングから、那珂理事長をはじめとする皆様方におこしいただき、お忙しいところ誠にありがとうございます。

さて、財団法人日本建築センターは、1985年に、現在の中国建築設計研究院の前身である中国建築技術発展中心との間で交流会議を開催いたしました。これまでに、「日中建築センター交流会議」は、今から2年前の2002年に中国・深圳で開催するまで12回行われました。

振り返りますと、1985年から今日まですでに19年の月日が流れております。その間の日中双方の変化は著しく、特に中国においてはめざましい経済発展が進行しており、建築につきましても、これまで以上に高い品質の建築技術が求められ、またそれに伴う各方面での基準作りも急ピッチで進められていると聞いております。

これらの変化に対応しまして、両機関のすばらしい交流をさらに発展、充実させるために、これまでの会議の交流範囲を広げまして、内容をより一層拡充させた「日中建築・住宅技術交流会議」の開催を当センターからご提案させていただきました。中国側からは中国建築科学研究院の新たなご参加をご快諾いただき、また、日本側からは財団法人ベターリビングのご参加をいただけるという、誠に喜ばしい運びとなりました。

本日は第1回の会議を開催するのに先立ちまして、新たな協力・交流のスタートを切る四機関によります協力協定の調印式を行いたいと思います。四機関の交流が今後大きく発展し、すばらしい実りを上げますことを祈念しまして、私の挨拶の言葉とさせていただきます。

どうもありがとうございました。

## 1 - 1 日本側挨拶

財団法人 ベターリビング  
理事長 那珂 正

低挫！

皆様、ようこそ日本にいらっしゃいました。財団法人ベターリビング理事長の那珂正と申します。開会に当たりまして、ひとことご挨拶を申し上げます。

今日ここに中国から、中国建築設計研究院の張文成院長、中国建築科学研究院の袁振隆執行院長をはじめ、両研究院の多くの方々をお招きして、日本建築センターの立石理事長の呼びかけにより、日中双方の主催機関を拡大して新たにスタートする日中建築・住宅技術交流会議に関する協定を締結する運びとなりましたことを、日本側主催者の一人として、たいへんうれしく思います。

私どもの財団は、かねてより従前の日中建築センター会議に鋭意参加してまいりましたし、また、国の JICA の技術協力プロジェクトの一環として、中国建築設計研究院には5年間で3名の者を、また、中国建築科学研究院へは4年間で2名の者を派遣してきて、両国の住宅建築分野における技術交流を積極的に進めてまいりました。今回、その中国の両機関と、この会議を通じ、また新たな交流をスタートさせることができることは、たいへん意義深いことだと思います。今日からいよいよ四機関による日中の建築住宅分野の交流が幅広く行われることとなりますが、ベターリビングといたしましては、できる限り実り多い、充実した会議となりますよう努めるつもりでございます。

最後に、この会議を通じ、日中の建築住宅分野の交流がますます発展し、ひいては両国の絆がいつそう強くなることを祈念して、私の挨拶とさせていただきます。謝謝。

## 1 - 2 中国側挨拶

中国建築設計研究院  
院長 張 文成

皆様、おはようございます。

第1回中日建築・住宅技術交流会議が、大変な準備の中、今日ここに開催されることになりました。私は、中国側代表団を代表してご挨拶をすることができ、本当に光栄だと思っております。

今年は、日本建築センター理事長の立石先生から、元の日本建築センターと中国建築設計研究院の両者の交流を、ベターリビングと科学研究院を入れて、四者にしたいというご提案がありましたが、これに対し日中双方からの前向きな回答を得ることができました。私は、この交流の拡大に対し、本当にうれしく思います。これからの交流を通じて、必ずや成果を上げられるものと思っております。

今、サステイナブルということについては世界各国から重視されており、また、サステイナブル建築についても、建築業界の注目を集めています。

皆様ご存じと思いますが、日本の国土交通省は今、2005年9月に東京で開催する2005年サステイナブル建築国際大会議の準備をしているところです。サステイナブル建築の発展は、建築計画、設計、施工、運営、建築材料及び建築部品の開発、建築法規の基準に対し、新たな課題をもたらしています。日本側はこれに対し、いろいろな研究を行ったそうです。我が国でも、この面に関する研究が始まりました。我が国におけるサステナブル住宅の評価システムの研究、それから当研究院が今行っている「健康住宅」の研究は、その一例であると思います。

今回の会議には、サステイナブルという課題も含めています。日本は、住宅建設の面において、いろいろな経験を持っておりまして、中国側にとっては、勉強になるところがたくさんあると思っております。今回の会議の中で、これから中日双方が住宅設計及び設備の面でどのように協力していけばよいのかについて、打合せを行いたいと思っております。

私の気持ちとしては、これからの交流会を通じて、今の建築分野において一番重要な問題について、専門のテーマを分けて、より良くより深く交流したいと思っております。私は、そのような交流会を通じて、中日双方の技術の発展を促進したいと考えています。

最後になりますが、今回の交流会議を通じ、きっとよい成果が上げられると思っております。また、これから建築分野においての交流は、必ず拡大できると思っております。

どうもありがとうございました。

## 1 - 2 中国側挨拶

中国建築科学研究院  
執行院長 袁 振隆

おはようございます。

元々の中国建築設計研究院と日本建築センターの協力の基礎の上に、我々中国建築科学研究院とベターリビングも一緒に今度の日中建築・住宅技術交流会議に参加することができまして、誠にうれしく思います。

サステイナブルな建築あるいはエコロジー建築というものは、現在世界の国々と人々の注目を集めています。この面の研究において、日本は中国よりも進んでいると思います。ですから、今度の会議を通じ、四機関の協力を通じて、この面の研究は必ずやよい成果を上げると思っております。

私ども四機関の協力を通じて、日中両国の住宅建築分野における技術交流が進み、将来、双方にとってメリットがもたらされることを信じております。今度の会議を通じ、四機関の協力がだんだんと発展し、今回の第1回日中建築・住宅技術交流会議がすばらしい成果を上げることがを祈念しております。

### 1 - 3 協力協定書

## 1-3 協力協定書

財団法人日本建築センター、財団法人ベターリビング、  
中国建築設計研究院、中国建築科学研究院の  
建築・住宅技術交流に関する協定書

### 1. 目的

財団法人日本建築センター、財団法人ベターリビング、中国建築設計研究院及び中国建築科学研究院は、日中両国間の建築・住宅分野における技術等に関する交流、協力を発展させてゆくことを目的として、本協定に合意する。

### 2. 四機関による交流及び協力の方法

建築・住宅における分野のうち本協定で定める範囲を中心として、四機関主催による「日中建築・住宅技術交流会議」を開催するとともに、必要に応じて同会議によって取り決めた事項及びその他四機関が重要と認めた事項について交流、協力を実施する。

### 3. 四機関による主たる交流及び協力の範囲

- (1) 建築・住宅における新技術の開発に関する事項
- (2) 建築・住宅における技術的評価及び評価結果の活用に関する事項
- (3) 建築・住宅生産における標準化、合理化に関する事項
- (4) 建築・住宅における材料、設備、部品の開発に関する事項

### 4. 日中建築・住宅技術交流会議の開催

- (1) 開催周期：四機関の合意による。但し少なくとも2年に1度は開催することとする。
- (2) 開催場所：日本・中国、両国における交互の開催を原則とする。
- (3) 開催形式：
  - ① 四機関による情報交流を行う。
  - ② 必要に応じて四機関以外の団体を加えた情報交流の場を設けることができる。

5. 連絡調整

四機関は、交流、協力のための連絡調整を緊密に行うため、それぞれ連絡担当を定める。

なお、日本側は財団法人日本建築センター、中国側は中国建築設計研究院を主たる連絡調整機関とする。

2004年12月13日

財団法人 日本建築センター  
理事長

立石 真

中国建築設計研究院  
院長

张敬成

財団法人 ベターリビング  
理事長

那珂 正

中国建築科学研究院  
執行院長

袁振刚

中国建筑设计研究院

中国建筑科学研究院

财团法人 日本建筑中心

财团法人 日本美好住宅中心

### 建筑·住宅技术交流协议书

#### 1、 目的

中国建筑设计研究院、中国建筑科学研究院及财团法人日本建筑中心、财团法人日本美好住宅中心为发展中日两国间建筑·住宅领域的技术交流与合作达成本协议。

#### 2、 四机构交流与合作方法

以本协议确定的范围为中心，在建筑·住宅领域中，召开由四机构主办的“中日建筑·住宅技术交流会”，同时对根据需要由该会议确定的事项和四机构认为重要的事项进行交流、合作。

#### 3、 四机构主要交流与合作范围

- (1) 建筑·住宅新技术开发
- (2) 建筑·住宅技术评价及评价结果
- (3) 建筑·住宅生产标准化、合理化
- (4) 建筑·住宅材料、设备、部品的开发

#### 4、 中日建筑·住宅技术交流会的召开

- (1) 召开周期：根据四机构意见而定，但至少2年召开1次。
- (2) 召开地点：原则上在中国·日本两国交替召开。
- (3) 召开形式：

- ① 进行四机构的信息交流
- ② 根据需要可以举办吸收四机构以外团体参加的信息交流会

5. 联络协调

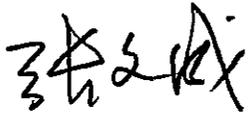
四机构为及时地进行交流、合作的联络协调，应确定联络窗口。

中方将中国建筑设计研究院，日方将财团法人日本建筑中心作为主要联络协调机构。

2004年12月13日

中国建筑设计研究院

院长



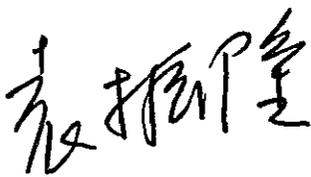
财团法人 日本建筑中心

理事长



中国建筑科学研究院

执行院长



财团法人 日本美好住宅中心  
Center for Better Living

理事长



## 2 - 1 日本側挨拶

財団法人 日本建築センター  
理事長 立石 真

さきほどは、財団法人日本建築センター、財団法人ベターリビング、中国建築設計研究院、中国建築科学研究院の建築・住宅交流に関する協定書への調印が無事終了し、いよいよ四機関による新たな交流の第一歩である第1回日中建築・住宅交流会議をここに開催することになりました。まずは、皆様のご協力に心より感謝の意を表したいと思います。どうもありがとうございました。

本日の会議では、午前中にそれぞれの機関についての簡単な紹介を行ったあと、午後からはいよいよ具体的な交流に入り、日本側からは建築技術・材料の認定・評価、住宅性能評価制度等の紹介、中国側からは、現在進行中の基準作りの状況、輸入建材の認定評価等についてご紹介をいただきます。日中双方にとって、非常に有益で、かつタイムリーな情報の交流ができると思っております。

また、明日は、日本型設計・設備の中国における可能性をテーマに、日中双方からの問題提起を行い、その後はパネルディスカッション形式で議論を進めます。この日は、日本側2機関以外からも参加者を募るオープンセミナーの方式で、日中双方のより具体的な交流に結びついていくような議論が交わされることを期待しております。

最後になりましたが、この第1回会議の実が大きく実り、今後の日中双方の建築・住宅分野における発展のために役立っていくことを祈念いたし、開会の言葉といたします。

## 2 - 2 中国側挨拶

中国建築設計研究院  
院長 張 文成

みなさま、こんにちは。

先ほど中国建築設計研究院、中国建築科学研究院、日本建築センター、ベターリビングの四者で、建築住宅に関する技術交流の協定書にサインいたしました。これは、中日建築交流が新しい段階に入ったことを表していると思います。

これから2日間をかけ、技術の専門家とともに、技術的なテーマに対して深く検討させていただきたいと思っています。このような交流は、これからの建築・住宅の発展を促進するものだと思います。今回の会議を通じて、実務的な協力を促進することができると思います。

ありがとうございました。